

2 学期の居住地校交流が始まりました！

「居住地校交流」は、特別支援学校に在籍する児童生徒が、自身の住んでいる地域の小中学校で、その学校に在籍する児童生徒とともに学習を行う活動です。先週より、2 学期の居住地校交流が始まり、早速「楽しかった」「また行きたい」などのうれしい感想が届いています。

知的障害部門小学部 1 年生 A さん

入学前の教育相談で教頭より居住地校交流についてお伝えし、今回初めての交流になりました。
(交流の様子)

学級活動の授業に参加し、自己紹介や校内見学、工作をしました。事前に練習し、用意していたカードを見せながら、一生懸命に自己紹介ができました。

工作では、自分で作ったブーメランに、友達の様子を見て模様を加えることもできました。校長室にも入り、校長先生とも仲良くなりました。

(保護者の方より)

小学校の友達と一緒に授業に参加できたことがよかったです。これからも、交流を続けたいと思います。



知的障害部門小学部 4 年生 B さん

個別懇談で担任よりお勧めし、小学部 3 年生より居住地校交流を始められました。

(交流の様子)

自分から走って校舎の中に入って行ったり、迎えに来てくれた友達へも自分から駆け寄ったりしていました。小学校の児童が作成したすごろく遊びをする中で、一緒に数を数えて駒を進める様子が見られました。

(保護者の方より)

最初は不安でしたが、小学校の友達の中にすぐに溶け込むことができました。みなさんがやさしくしてくれ、とても助けられました。休みの日に一緒に遊ぶこともあります。



令和 5 年度東支援学校居住地校交流実施（計画）の現状

小学部	肢体不自由部門	17名（児童数34名）	交流籍のみ2名
	知的障害部門	26名（児童数73名）	交流籍のみ5名
中学部	肢体不自由部門	4名（生徒数14名）	
	知的障害部門	9名（生徒数43名）	

小中学部合わせて56名です。
令和2年度は、36名でした。実施数が増えてきています！

「交流籍」とは、特別支援学校の児童生徒が地域の小中学校に置く副次的な籍のことです。「交流籍」があることにより、「私の学校、私のクラスの仲間」という意識が芽生え、つながりが続いていくことが期待できます。

これまで居住地校交流を経験されていない方も、今後、ぜひ始めてみられませんか？
ご希望、ご質問がある方は、担任や学部教頭におしらせください。